

JICA食と農の協働プラットフォーム (JiPFA)
第7回アフリカ・フードバリューチェーン分科会
第6回農業機械化分科会

2021年9月17日開催

独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency: JICA)
アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査
〈進捗報告〉

(株) かいはずマネジメント・コンサルティング

- 1) 調査概要
- 2) AFICAT計画（全体）
- 3) 各国におけるAFICAT計画（案）
- 4) 各関係者からの投入（案）
- 5) AFICAT実施工程



日本の農業機械でアフリカ進出を！

1) 調査概要 調査の目的、調査対象国、調査期間

■ 背景

- ・ TICAD7（2019年8月）で「アフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想」が発表され、「先進農業技術の導入」を推進することとなった。
- ・ その実現に向け「日・アフリカ農業イノベーションセンター（AFICAT：Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology）」設置にかかる調査を実施することになった。



■ 本調査の目的

- ・ サブサハラアフリカ（SSA）において、農業生産性や農産品の品質向上に資するべく、先進的な技術や農業機械化の推進のため、AFICATの設置にかかる情報を取りまとめる。
- ・ AFICATは日アフリカの官民で推進し、本邦企業のSSA進出の足掛かりとする。



■ 対象となる農業機械・調査対象国

主に稲作用の農業機械を対象に、東アフリカ2カ国（タンザニア／ケニア）、西アフリカ3カ国（コートジボワール／ナイジェリア／ガーナ）の5カ国において現地調査を行う。



■ 調査期間

2020年4月 - 2022年3月（現地調査：2021年3月以降）

■ 調査受託企業

（株）かいはつマネジメント・コンサルティング

1) 調査概要 調査の進捗

	時期	活動	補足
1	～3月	国内作業	<ul style="list-style-type: none"> 本邦企業、国内主要関係者との意見交換 現地政府関係者とオンライン協議
2	3/11～4/5	現地調査 (ガーナ)	<ul style="list-style-type: none"> ガーナ現地調査
3	4月末	中間報告書提出	<ul style="list-style-type: none"> 本邦企業からの聞き取り結果、ガーナ現地調査の結果などをまとめ、中間報告書として提出済
4	5/15～ 6/7	現地調査 (ナイジェリア)	<ul style="list-style-type: none"> ナイジェリア現地調査
5	7/3～ 7/18	現地調査 (タンザニア)	<ul style="list-style-type: none"> タンザニア現地調査
6	8月	国内作業	<ul style="list-style-type: none"> AFICAT計画案をアフリカ進出に関心を持つ企業に提示し、AFICAT参画意向を個別に確認予定。
7	9/11～ 9/26	現地調査 (コートジボワール)	<ul style="list-style-type: none"> コートジボワールで現地調査
8	10月以降	現地調査 (5カ国目)	<ul style="list-style-type: none"> ケニアで現地調査 (予定)
9	10月～ 12月	本邦企業とAFICAT 設置予定国／優先 国によるオンライ ンWS	<ul style="list-style-type: none"> 本邦企業とAFICAT設置予定国／優先国 (国名は未定) をつないだオンラインWS
10	12月中旬	DFR提出	<ul style="list-style-type: none"> AFICAT計画案を最終化
11	2月中旬	最終成果品提出	

2) AFICAT計画

AFICATの狙いと7つの機能 (案)

「日・アフリカ農業イノベーションセンター」

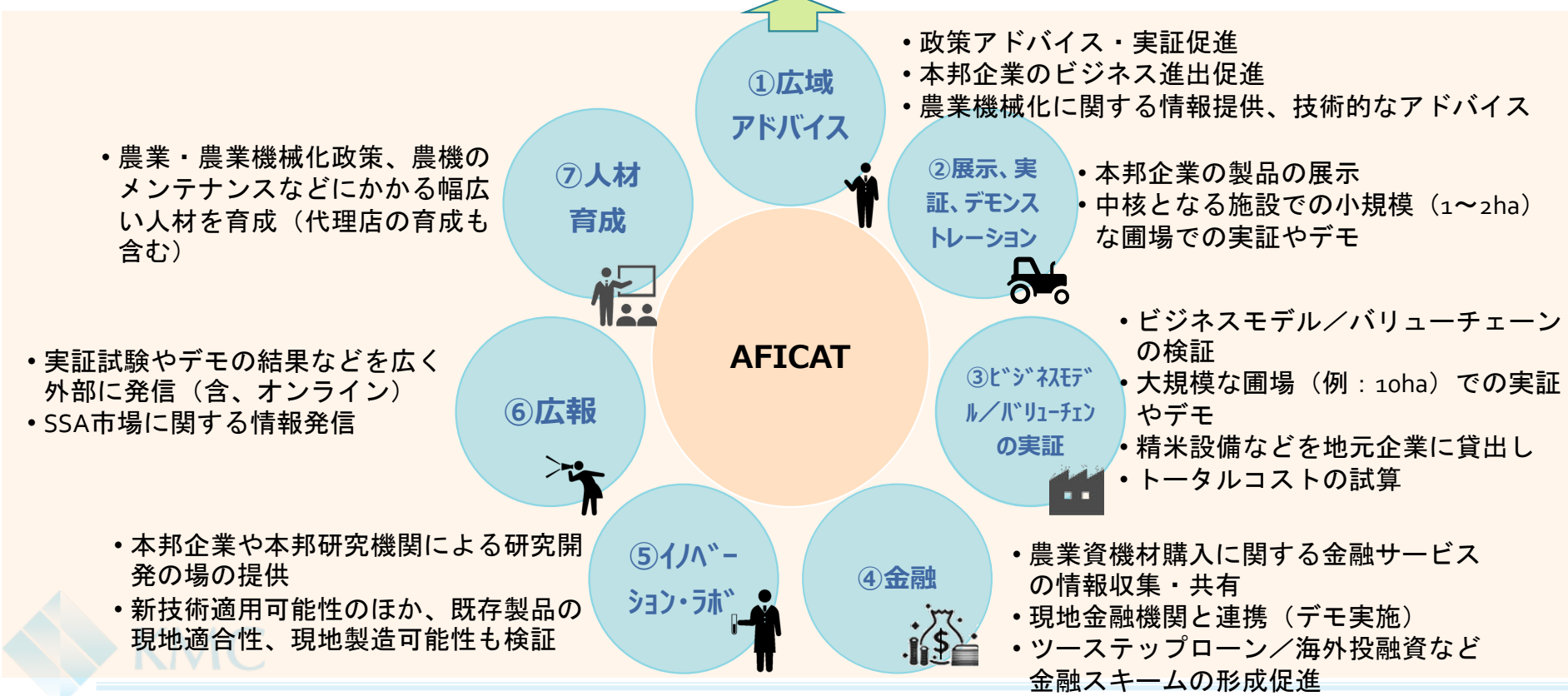
(AFICAT : Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology)

※既存の施設・組織に機能を付加する。

※本調査はコメ関連農機を中心に調査するが、AFICATは農業資材や、コメ以外の農産物も幅広くカバーする。

SSAにおける農業生産性向上（農業機械化を含む）、農産物の品質向上、農民のエンパワメント

本邦企業のSSA進出の足掛かり



AFICAT設置に向けた基本方針 (案)

- (1) AFICATは**東アフリカ**、**西アフリカ**の両方で稼働を開始する。
- (2) 2022年8月頃にTICAD8が開催されることを想定し、それまでに試行的にAFICATを稼働させる。具体的には、**現地での農業機械受入れや実証を支援するための人員をJICAで配置**する。
- (3) 活動は地域、連携機関を特定し、小規模に始める。その後、本邦企業の意向や現地の状況に合わせて、段階的に活動範囲を広げていく。
- (4) JICA筑波の圃場や施設の活用、JICA筑波の研修事業やJICA民間連携事業との連携も検討する。





3) 各国におけるAFICAT計画

①ガーナ AFICAT設置候補 (ポン灌漑地区)



ポン灌漑地区 (Kpong Irrigation Scheme : KIS)

- 首都アクラから近い (北に100km、車で2 - 3時間程度)。
- 2,032haの灌漑地 (水田)、2,767農家。
- JICAの活動拠点となっている。
 - JICA「ポン灌漑地区における小規模農家市場志向型農業支援・民間セクター連携強化プロジェクト」が2016年1月から2021年7月まで実施 (CPはガーナ灌漑公社 (GIDA))。
 - 2021年から天水稲作、灌漑稲作を網羅するJICA技術協力プロジェクト「ガーナ稲作生産性向上プロジェクト (GRIP)」が開始される予定 (AFICATはGRIPの中で稼働予定)。
- 現地の人材が育成されている (ガーナ灌漑公社 (Ghana Irrigation Development Authority : GIDA) ほか)
- 1区画1haと大きく、農機が導入しやすい。
- 都市部に近く労賃が高いこともあり、機械化がすすんでいる。
- 研究機関との連携実績あり。



3) 各国におけるAFICAT計画



①ガーナ AFICAT設置候補 (ポン灌漑地区)

ポン灌漑地区 (Kpong Irrigation Scheme : KIS)

- 灌漑地区に小規模な精米所が点在している。収穫後処理に関する実証やデモも可能。



3) 各国におけるAFICAT計画

②ナイジェリア AFICAT設置候補 (FCT、ナサラワ州)

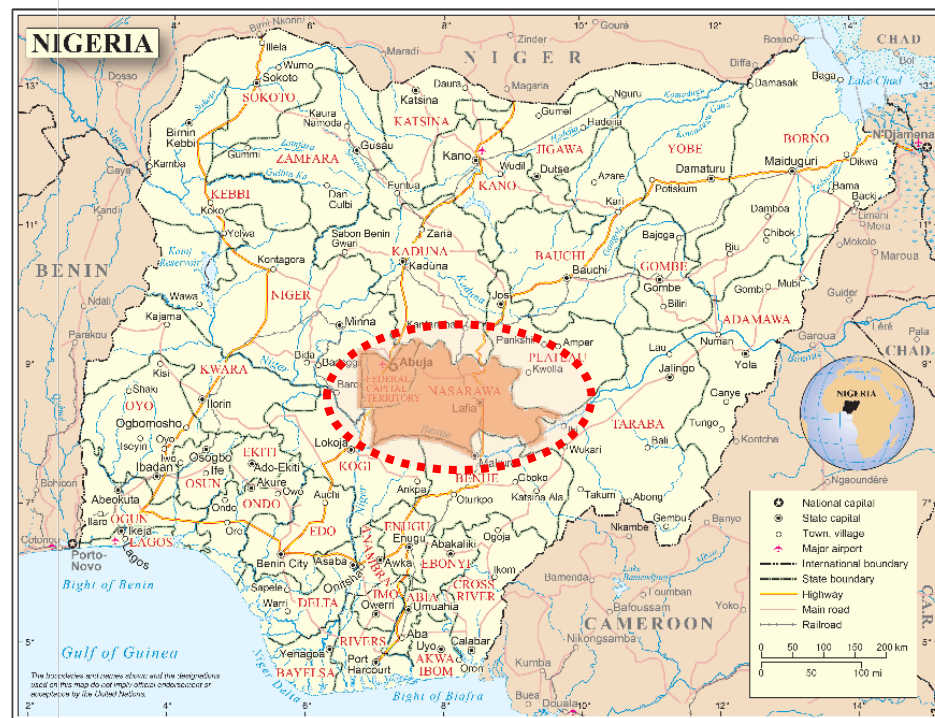


連邦首都地区 (Federal Capital Territory: FCT)

- ナイジェリアの中央部に位置するアブジャの首都圏。

ナサラワ州 (州都ラフィア)

- FCTに隣接する。
- 2020年に始まったJICA「生活向上のための市場志向型農業普及振興プロジェクト」の対象州の1つ。2016年までJICA「コメ収穫後処理・マーケティング能力強化」が実施された。
- 精米業者のクラスターがある。
- 2021年6月時点で訪問できる数少ない地域の1つ。
- FCT、ナサラワ州はそれぞれ40.4万トンのコメを生産し主要コメ生産地の1つとなっている (政府統計資料2020年)。



ナサラワ州ラフィア近郊の水田 (天水低湿地)

3) 各国におけるAFICAT計画



②ナイジェリア AFICAT設置候補 (FCT、ナサラワ州)

- ナサラワ州
- 園芸も盛ん。



ナサラワ州ラフィア近郊の農地

- ラフィア精米クラスター：Lafia Rice Millers and Dealers Associationには精米業者、パーボイル業者、コメ／粳ディーラーなど750人がメンバーとなっている。



パーボイル



天日乾燥



精米 (Engelberg)



コメ (もみ殻が残る)



もみ殻の餞別。

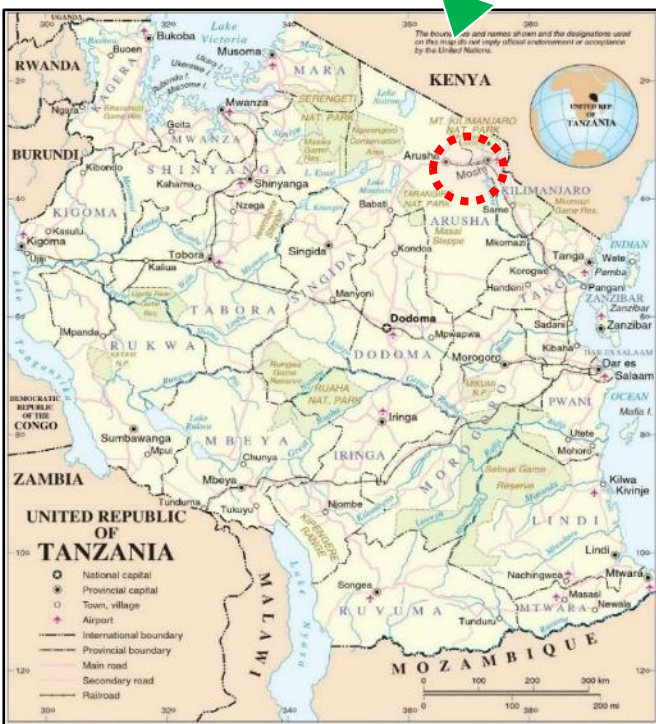
3) 各国におけるAFICAT計画

③タンザニア AFICAT設置候補 (KATC/ローアモシ灌漑地区)



キリマンジャロ農業研修センター (Kilimanjaro Agricultural Training Center : KATC)

- キリマンジャロ国際空港から車で1.5時間程度と比較的アクセスが良い。
- 1990年代以降、JICAは支援を継続しており、2019年に終了したコメ振興支援計画プロジェクト (TANRICE 2) の活動拠点であり、かつ後続プロジェクトでも拠点となる予定 (KATCを中心に国内にある研修センターで活動予定)。
- 長年の支援により、農機、人材、圃場などリソースが豊富に揃っている。



3) 各国におけるAFICAT計画

③タンザニア AFICAT設置候補 (KATC/ローアモシ灌漑地区)



ローアモシ灌漑地区

- KATCに隣接。灌漑面積は2,300haで、うち1,100haが稲作 (lowland)、残りは畑作。畑作地はメイズ、ひまわりなど様々な作物が栽培されている。稲作の水が十分にある時には畑作の方にも水を送るが、ない時は水を送らない。その時期は何も栽培していない。最近住宅も建てられており、浅井戸で灌漑する農家もいる。
- 一筆0.3ha。3,700農家 (メンバー)。
- 灌漑地区内に小規模精米所が点在している。



4) 各関係者からの投入（案）

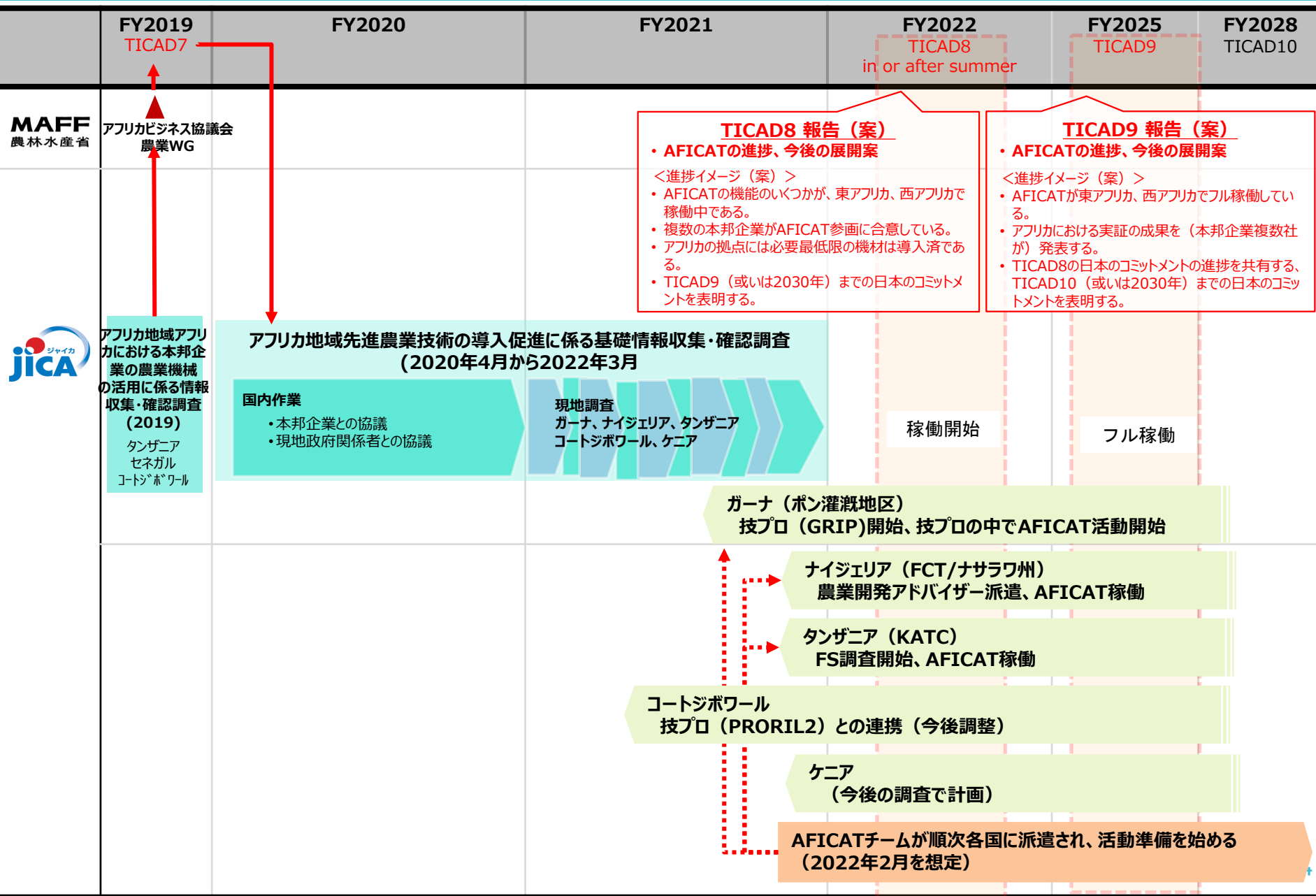
		AFICAT設置国 政府／民間セクター	日本政府／JICA	本邦企業
1	土地、建物	◎	○ 建物のリハビリ、セン ターおよび周辺の圃場 整備	-
2	人員	◎	△	○ 企業から技術者などの 派遣
3	農業機械	○ コメ生産などに必要な 農業機械など	△	◎ 展示、実証、デモ用の 本邦企業の製品
4	農業資材	○ コメ生産などに必要な 肥料などの投入材	△	◎ 展示、実証、デモ用の 本邦企業の製品
5	運営費（燃料代、施 設の維持管理費な ど）	◎	△	

◎: 主に負担

○: 一部負担

△: AFICATが全面的に稼働するまでなど、一定期間負担

5) AFICAT実施工程 (案)



ご清聴ありがとうございました。

お気軽にご連絡ください。

(株) かいほつマネジメント・コンサルティング
お問い合わせ窓口

tel: 03-5791-5083

高梨 直季 takanashi.naoki@kmcinc.co.jp

脇田 絵美 wakita.emi@kmcinc.co.jp

小林 三恵 kobayashi.mie@kmcinc.co.jp